２００９年９月度　六甲山自然案内人の会
定例自然観察会　報告書

期　日 ２００９年9月１３日(日)
コース 摩耶山・青谷道
　　阪急王子公園駅～妙心院～青谷道入口～観光茶園～あけぼの茶屋～行者茶屋～
　　天上寺跡～掬星台(解散)

参加者 会員２０名　　ビジター４２名　　計６２名
(※今回は環境学習プログラム参加者と合流)

【観察ポイントと解説】

☆　観光茶園

・観光茶園・静香園の紹介。
・明治時代、居留外国人により神戸港から日本茶が輸出されていた。
　当時日本茶は生糸と並ぶ日本最大の輸出品目であった。
　グルーム氏も日本茶の輸出を生業としていた。
　神戸ではそれに伴い、六甲山麓の丘陵地帯で茶の栽培も行っていた。
　西日本の栽培地から送られてきた茶は神戸で加熱乾燥し長時間の輸送に耐えるようにして、袋詰めされ船に乗せられていた。
・静香園はそのような歴史の一端を今に伝えている。
　またそれを目的に昭和５１年にここ青谷道の開園した。

※詳細は配布資料をご参照ください

☆　毎日登山署名所

・毎日登山署名所・あけぼの茶屋は長い歴史を誇る登山会・神戸ヒヨコ登山会の毎日登山の署名所である。
・神戸の登山会誕生には明治時代の居留外国人の存在を抜きにはできない。
　明治30年代大竜寺前にあった善助茶屋に神戸在住のハンターという外国人が毎朝通って来、コーヒーを飲むことを習慣とした。
　六甲山を歩く外国人はハンターだけではなく他にも数多くおり、
　やがてそれがハイカラ好みの神戸っ子の間に取り入れられ、大正に入ると日本人による登山会が多数誕生するようになる。
・ここ青谷道にも署名所を置く神戸ヒヨコ登山会は大正１１年に誕生して、今日も８００名の会員を有する。
　すぐ上に署名所を置く神戸突破峰(つくばね)登山会も大正１１年に誕生し、いまも２００名近い会員がいる。

※詳細は配布資料をご参照ください

☆　二次林の特徴①

・摩耶山の植生の特徴は山頂部にはスダジイやアカガシなどの大木が残る原生林を思わせる森が今日も残っているのに対して、山麓部にはおそらく古くから里山として収奪を繰り返され、江戸時代にはすっかりはげ山となってしまったのであろうことが想像される二次林が見られる。

※二次林・・・一旦裸地となった土地に真っ先に生えてくる日当たりを好む樹木により構成される森の総称

・山麓部の植生はアラカシを中心とし、ムクノキ、クスノキ、カラスザンショウコナラ、アカマツ、ハゼノキなどの高木、ネズミモチ、ヤブツバキ、ヒサカキムラサキシキブ、イヌビワ、キハギ、イヌガヤなどの低木、そして林床にはシダ、ネザサを含む数えきれないほどの多種の草本類が見られる。
　またフジ、テイカカズラ、アケビ、マメヅタ、センニンソウなどのつる植物も

少なくない。
・高木の樹高は15m程度、胸高直径30ｃｍ以下、株間は平均1m以下で30m先は木々によって遮られ見通しはきかない。
・頭上は狭いながらも道沿いに空が開けて見える。

☆　二次林の特徴②
・同じ二次林でも砂防ダムの堰堤の真上とその周辺ではさらに歴史の浅い二次林の姿を見ることができる。
・ここにはアカマツ、アカメガシワ、コナラ、カラスザンショウ、ネムノキなどが見られるが、どれも樹高は10m程度で幹も細い。
低木類はアカメガシワ、イロハモミジ、ムラサキシキブ、コアジサイ、キハギエノキなどの落葉樹が主体となり、そこにシラカシ、アラカシ、ヤブツバキなどの常緑樹が混じる。
特に目立つのはクズ、サルトリイバラ、ハンショウヅル、ヘクソカズラ、オニドコロ、ノブドウなどのツル植物が多い。
草本類も多く、イタドリ、チヂミザサ、ヒヨドリバナ、ネザサなど。しかし明るい沿道にはシダ類は比較的少ない。
・まだ樹高が低いためか頭上の空は広い。

☆　山頂近くの森の特徴
・山頂部の植生はスダジイ、アカガシ、スギの大木、スダジイ、アカガシ、スギアカシデ、ウラジロガシ、ホオノキ、アラカシなどの亜高木、ヒサカキ、ネズミモチ、アオキ、カナメモチ、スダジイ、アラカシなどの低木が占める常緑広葉樹中心で構成されている。
林床は薄暗く下草の姿はほとんど見ることができない。
高木の樹高は20mに達するものもある。胸高直径は80ｃｍ近いものもありそうである。
株間は広く、木々はややまばらに生えているという印象が強い。
・また山麓部に比較して単位面積当たりの樹種も本数も少ないように思われる。
・頭上は高木の樹冠で覆われ、ドーム状空間をつくり、空は木の間越しにしか見えない。
・これらの大木がここに残っている大きな要因は山頂にあった天上寺の存在が大きい。
山麓部は里山として収奪されてきた歴史を持つが、ここ山頂部は境内林として守られてきたからであろう。
・特に西日本の極相林を形成するといわれるスダジイ、アカガシの存在がこのコースの最も大きな特徴だといえる。

☆　天上寺跡
・ここには昭和51年に消失するまで天上寺というお寺があった。
・寺の歴史は古く、開祖インドの高僧法道仙人によって開かれたのが646年といわれており、摂津一の大寺であった。
唐の留学から帰国した弘法大師は釈迦の母である摩耶夫人（まやぶにん）　の像を持ち帰り、ここ天上寺に安置した。
摩耶山の名はその摩耶夫人にちなんで呼ばれるようになったという。
また摩耶夫人は釈迦を産んで7日後になくなっているが、死後忉利天（とうりてん）に転生したという説話から忉利天上寺と呼ばれている。
・しかし昭和51年の夜、放火により伽藍のほとんどを消失。
その後現在の場所（摩耶山頂東）に新しく寺が建て直された。

☆　三角点

・摩耶山頂には三等三角点がある。
・三角点は三角測量のための基準点である。
・三角点には一等から四等までがあり、全国には11万点近い三角点が設置されている。
※詳細は配布資料をご参照ください

以下、観察会風景と植物

王子公園駅前

観光茶園

二次林の観察

昼食

旧天上寺跡での解説

三角点の解説

観光茶園

クズの花

ヤマハギの花

ベニバナボロギクの花

ヒヨドリバナの花

オトコエシの花

ハンショウヅルの実

センニンソウの花

クサアジサイの花

ヤマジノホトトギスの花

シコクママコナの花

アカガシの葉

ゴンズイの実

タカノツメの実